

戦時下国策紙芝居と大衆メディアの研究

安田 常雄（非文字資料研究センター 客員研究員／研究班代表）

本班は、2014年度の発足後9年を経過する。この間、『国策紙芝居からみる日本の戦争』（勉誠出版、2018. 2。以下『国策』）、『国策紙芝居—地域への視点・植民地の経験』（御茶の水書房、2022. 3）の単行書を刊行したほか、『非文字資料研究センター News Letter』の各号（別冊とも）に、海外（台湾）を含む約30地点の地域調査状況、および紙芝居作品（用語や人物など）研究報告（連載中）を掲載してきた。『国策』では櫻本富雄コレクション241点の紙芝居解題を行ったが、その後の各地調査において約270点の紙芝居が発掘されており、これらをまとめた『国策』続編を刊行することが課題となっている。続編には、新たな作品解題とともに、研究員による論稿数点、

全国書誌の改訂版を掲載予定である。2023年度以降は、恒常的な調査・研究活動を基礎に、続編の刊行とともに、2022年度に研究交流協定を締結した国立台湾歴史博物館との連携により植民地紙芝居の研究を深めていきたい。これらの研究をもとに、2～3回程度のシンポジウムを開催し、成果を公開していく方針である。



『銃後の歩調／銃後の脚歩』台湾紙芝居協会（梁志忠氏所蔵）



台湾での「日本語世代」の方へのインタビューの様子